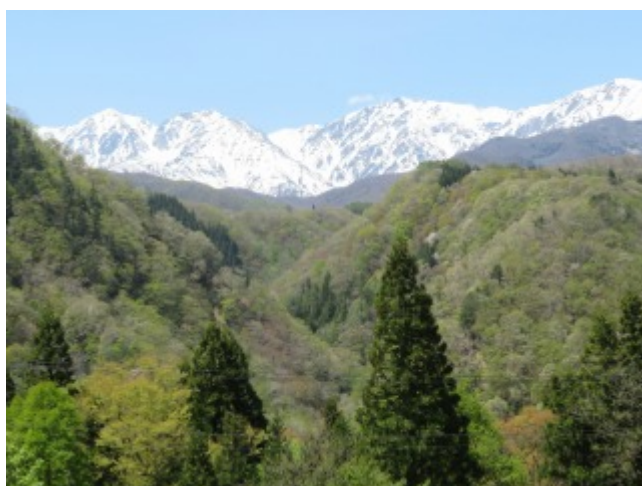


裾野麗峰山の会・山行報告書		文・井上 写真・後藤
山行番.	NO. 2017 (春山合宿)	
日 時	2023 年 05 月 03 日 (水) 無風・快晴・高温	
山 域	頸城 (くびき) 山塊・権現岳 (1104m) ~ 鉾ヶ岳 (1316m) 柵口 (ませぐち) コース	
コース	5/2 (火) 長泉 7:00-道の駅ハイジの里 10:00-青鬼集落付近で昼食 12:00-鉾ヶ岳と権現岳の登山口下見 14:00-ゲストハウス「山楽」到着 15:00-温泉「権現荘」-宿チェックイン 16:00 5/3 (水) 起床 4:00-宿出発 5:00-宿へ軽トラ返し、井上スタート 5:10-先行の二人に合流 5:55-権現岳頂上 8:11-鉾ヶ岳 10:27 (昼休憩) ~ 下山開始 10:51-大沢峠分岐 11:12-溝尾ルート登り口 14:18-駐車場 14:22-神城・民宿「水車小屋」-道の駅「ぽかぽかランド美馬」温泉-宿にて山田さんと合流	
標高差	上り 柵口約 194m~権現岳 1104m~鉾ヶ岳 1316m=累計約 1122m 下り 鉾ヶ岳 1316m~溝尾駐車場約 415m=約 901m	
データ	長泉町~神城・水車小屋=約 450km、有料道路料金=5880 円、燃料=4900 円	
難易度	非常に困難 <b>レ困難 (残雪期)</b> やや困難 普通 やや易しい 易しい	
<b>二度と登りたくない山リスト第 1 号</b>		
参加者	後藤、加藤、井上=3 名	

5 月 2 日、加藤さんの車で長泉を出発。山田さんは 2 か月の「山断ち」を終了し、明日移動で明後日の唐松岳に参加することになっている。

道の駅ハイジの里で食料品の買い物。白馬・青鬼 (あおに) 集落付近の車で少し上ったところの柵田の跡らしきところで、遠く白馬連峰を眺めながら昼ご飯を摂った。糸魚川から北陸道を能生 (のう) IC で下りる。



白馬三山



昼食

鉾ヶ岳のゴール地点の下見をする。島道鉱泉から入り、ゴルフ場を經由して溝尾コース登山道入り口を確認した。この上に駐車場があるはず。ここで我々がすばらしい何かを大量に採取したかは記録には残せない。さらに一度里に戻り、今回の登り口である柵口 (ま



西から仰ぐ鉾ヶ岳（左の稜線を下山、出っ張りは金冠山）

せぐち)側の権現岳登山口へ向かう。途中右手に落差60mと思しき白滝が見えた。滝の水は途中で霧散していた。

ゲストハウス「山楽」に到着するも、チェックインは16時とのことでご主人が不在のため、中にいたお手伝いの女性から近くの温泉・権現荘(700円だったような)を教えてもらい、先に入浴となった。

宿にチェックインし、宿主人の施設のオリエンテーションがあった。基本風呂無しで、近所の温泉を利用。キッチンで使用可能で、電子レンジあり。食器は使ってよい。カセットコンロはあるがガスボンベは個人準備。湯沸かし電気ポットあり。

リビングにはたくさんの炬燵と薪ストーブ。各所に多くの楽器がある。ここでライブを開いているようだ。部屋は12畳で、ほかの部屋も空いているので、500円追加して加藤さんは別室とした。

宿主人と登山口までの送迎について相談。いろんなパターンと実施時刻を検討した結果、今から宿の軽トラで並走してもらい私たちの車を、鉾ヶ岳の下りゴールとなる溝尾コース登山口駐車場にデポする。

明日の朝は、また軽トラを借りて、私が運転し、後藤さんと加藤さんを権現岳登山口に送り、私は軽トラを宿の戻し、空身で二人に追いつくという作戦。このため、一人500円プラスで支払う。ちなみに宿泊代は通常素泊まり3500円だが、連休料金の4300円で4000円になり、結果一人4500円。



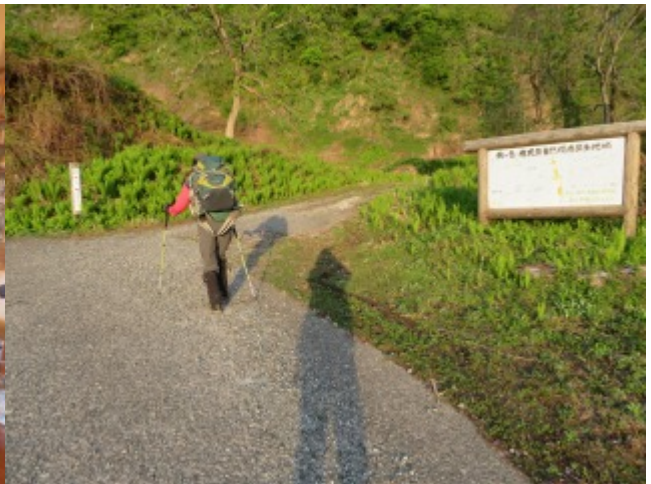
権現荘



山楽



リビング



登山口

リビングで各自が持参した夕食を取る。夕方は寒い。隣で薪ストーブを炊こうと若い人が頑張っているがなかなか点かず、煙が部屋を充満し始めた。そのため窓を開けたので寒い。宿の主人が戻ってきてバトンタッチし、それでも悪戦苦闘しながら点火し部屋が暖まったが、そのころには食事は終わっていた。

このご主人は47歳で、7年前に埼玉から家族で移住し、不自由な場所でも生きていけることを目指しているそうだ。冬は3mの雪が積もるので大変らしい。地元の人に教をを請いながらやっているそうだ。

今年小学校に入ったばかりの6歳の娘さんと4歳のかわいい息子さんが私たちの周りによってきて一緒に遊んだ。小学校は1,2年が一クラスで数人しかいないそうだ。夜はカエルの鳴き声しか聞こえない。外は明かりが少なく、星がキレイだ。

翌5月3日。宿の軽トラを借り、後藤さんと加藤さんを権現岳登山口まで送る予定だったが、もっと手前で2人をおろして軽トラを返すことになった。登山口まで行けば標高で150m稼げたが、70m分しか稼がなかった。

私の荷物をデポするはずだったが、後藤さんと加藤さんで私のザックも持って出発した。私は軽トラを宿に返しに戻り、空身で宿から再スタート。権現岳登山口でもまだ追いつかない。昨日見た白滝が大きな落差で流れ落ちる。



白滝



すぐ残雪



下山の金冠山



早くもヤバい

標高 406m 地点、260m 登った地点で先行する 2 人と合流した。後藤さんが私のザックを背負い、加藤さんが自分と後藤さんの 2 人分のザックを背負っていた。登り口から急登なので、荷物が重いとかなりきつかったと思う。

カタクリが群生しているが、朝は花が閉じてしおらしく下を向いている。太陽が昇り、気温が上がると花卉が 180 度反対にひっくり返り花も顔を持ち上げるそうだ。

急登のままにガレ場あり、残雪あり、藪ありと、標高は低いのに超アドベンチャーコースだ。ロープ、鎖、岩の連続。「なんじゃあこりゃあ」(TV によく出る登山家の中島健郎の口癖が思わず声にでる)。

「天狗屋敷」には白骨化した巨大木があり、その後ろに小さな祠があった。大岩が重なり合ってトンネルになった「胎内洞」潜りに、左右両側が大岩で狭くなった「挟み岩」。どちらも狭い空間はザックを背負ったままでは通過できず、背から下し、引っ張り上げた。記憶では、最初から最後までずっとロープが下がっていた気がする。

ずっと垂直の壁に両手を使って上っていた。ずっとロープをつかんで体を持ち上げていた。いつまでもロープは終わらない。登り口で見上げた絶壁は、迂回路などなく、見たままに上へと登って行った。

権現岳頂上到着。標高 1104m。頂上は鉄塔があった。妙高や火打がきれいに見えた記憶はかすかにあるが、ロープや鎖場がやっと終わったという安堵しか残っていない。



胎内岩



白山権現



権現岳



盟主・妙高山



本石楠花



銚ヶ岳



トツヶ峰



銚ヶ岳に向かう

これから向かう銚ヶ岳が残雪でまだらに見える。痩せ尾根を歩く。確か気持ちいい道だったと思うが、権現までの苦行と、この後の銚ヶ岳からの下りの苦行のために楽しかった記憶が飛んでしまっている。

銚ヶ岳手前のピーク「突鷄（とつけ）峰」標高 1280m でアイゼンをつける。雪はざらざらして、滑らないが崩れやすい。今回、私は初めて夏用の革靴に1本縛りアイゼンをつけてみる実験を試みた。冬用の靴と違い、革が柔らかいので雪の上はよいが、雪がなくなり土や石ころの道になるとアイゼンがふにゃふにゃと固定されず歩きにくかった。



鉾ヶ岳小屋



山頂



火打山



溝尾コースを下る



溝尾上部



2009/05/05 溝尾コース上部（村上・石和・中村）

実験は失敗だった。ルートがわかりにくい。やがて避難小屋のある銚ヶ岳に登頂。権現岳では見えなかった白馬連峰まで見えた。後藤さんは疲れのため固形物が食べられなかった。私はいつものカップヌードルを食べた。後藤さんのあっさりカップヌードルの残りも腹に収めた。

下山を開始。残雪を下る。大沢峠分岐では島道コースが通行止めとなっていた。歩く尾根の先に大きな岩（金冠（きんかむり）山）がそびえたっている。頂上から最下部までロープが下がっている。

2万5000円でピークがないのでおそらく10m以内か。後でネットを見ると、地元では「銚ヶ岳のジャンヌダルク」と呼ばれているようだ。あれには登りたくないなあ、きっと回り込んでいく道があるだろうと希望的観測で近づいたが、ロープを登るしかなかった。

ロープで登り、ロープで下った。ちょっとした岩の突起に足をかけ、突起がなければ靴底の摩擦を信じて足を置く。天気がよいので岩が乾いていて助かる。濡れていたら危険だ（というか下ることができないのではないか）。

その後は、残雪の雪渓と、石ころの道が交互に繰り返し現れるので、アイゼンを外すことができない。今日は、登山開始から最後まで、道のわきには花が乱れ咲いていたが、心に花を愛でる余裕はなかった。

持って行った水も尽き、口が乾く。早く駐車場に戻りたいのになかなか着かない。後藤さん、「二度と行きたくない山のコーナーをホームページに作ろう。この山が第1号だ。」



と言う。そのとおり。

加藤さん、「山田さんが行きたいって言ったら、井上さんが連れて行ってね。」と言うが、もう来ないだろう。カタクリの花びらは反対側に開き、群生していた。

- 地元山岳ガイドのホームページにも「二度と来たくないと思った過酷な山」という後藤さんの言葉と同じ表現を見つけた。
- この日、山では他の誰とも会わなかった。
- ゲストハウス「山楽」主人によると、権現岳・棚口コースは、修験道の山らしい。地元の小学生は権現岳に登るが直登ではない、地元一般コースがある。

以上

#### その他の記述（後藤）

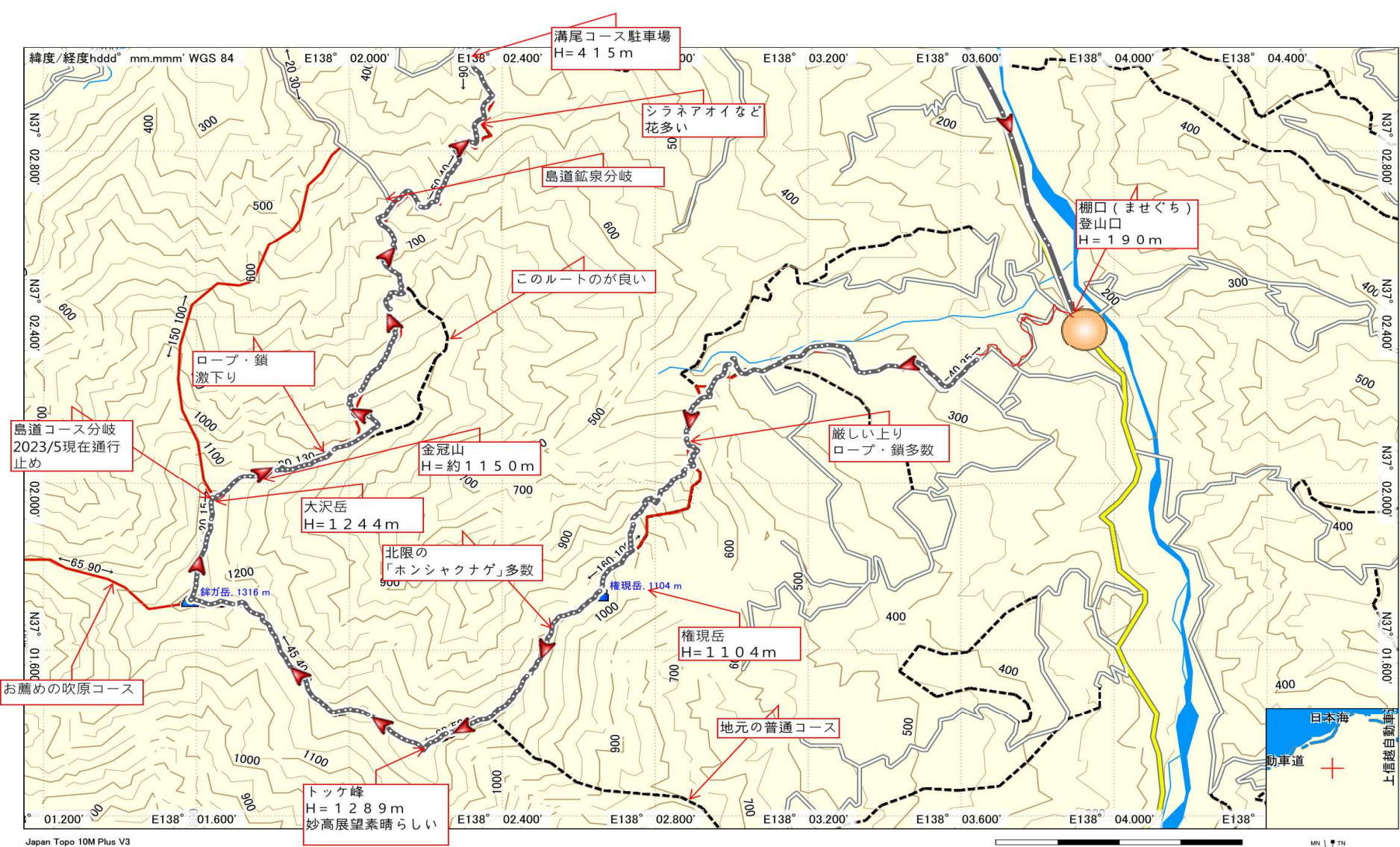
1. 鉾ヶ岳は、棚口・溝尾・吹原・島道の4コースと、地元一般コースが、権現とトツケのコルにある。一般コースは、標高625mまで車が入るので小学生でも上れる。
2. 私は前回、2009/05/05 島道コースから上ったが、棚口ほど厳しくなかった。ただ、現在は通行止めになっている。溝尾コースは下りが厳しいので、西の吹原コースが良い。
3. 残雪期の棚口～溝尾コースは、厳しいので記録が少ない。帰って暫く腕が筋肉痛だった。昔の記録で金冠山に鉄梯子があった。現在は、ロープが延々と続く。
4. 溝尾コースは、金冠山を下り、標高約1000mで山腹をトラバースしながら下るが、ここは残雪の重みで樹木が登山道を塞ぎ最悪だった。帰着後、GPSを見たら、標高点・875mを経由する尾根道があった。下るなら尾根コースが良い。
5. 様々な花は素晴らしい。特に「本（ほん）石楠花」は、北限といわれ一見の価値がある。
6. 棚口集落は、「山菜」の全盛期。集落は、入山料1500円。採り放題で山を開放している。「山楽」のオーナーは、受付を担っていた。Wは、とても美味しかった。
7. 翌日、八方尾根予定だったが、腕の使い過ぎか過労か、怪我の首が痛く結局、断念した。



紅白の岩鏡（イワカガミ）



写真・加藤



2023/05/05 14:23:40

